

森のようちえんで5つの力を育むための環境による保育 －モザイクアプローチによる実践から－

広島大学附属幼稚園

1. 活動概要

本園は「豊かな自然や友達とかかわりながら一人一人がその子らしさを発揮し共に育ち合う生活を通して心豊かにたくましく生きる力を育む」という教育目標のもと、広島県が提唱する「感じる・気づく力」「うごく力」「考える力」「やりぬく力」「人とかかわる力」の5つの力によるバランスのとれた生きる力を育み、また豊かな心情・意欲・態度を育むことを教育方針とし日々実践を行っている。また本園は園の環境を生かしながら保育実践を深め、保育の質の向上に取り組んできた。そのなかで日常的に森の中で好きな遊びを楽しんでいる5歳児の子どもたちが卒園を意識するようになった頃、子供たちに“森のお気に入りの場所”を尋ねることで、思い出を振り返る機会になること、また同時に、子どものお気に入りの場所を知ることは、今後の森の環境づくりに生かすことができることも考えられたため、子供たちが自分でカメラを使って行う「モザイクアプローチ」の手法を用いて実践を行った。

2. 本実践事例について

モザイクアプローチとは

モザイク・アプローチ(Clark & Moss, 2011)とは、子供を「完全なコミュニケーター」とみなし、複数の視点(子供、大人、保育者等)とコミュニケーション・モード(視覚情報、発話等)をモザイクのピースとして組み立てて、子どもの認識に接近する手法である。子供一人ひとりが幼稚園の好きな場所に対してどのような価値づけをしているか、一人ひとりの声に耳を傾け、個々の多様な価値づけを意識することは、子供の視点から保育や遊びの環境を向上・改善する際の重要な手がかりとなりうる。またこのような手法から得られた視点は、日々の保育実践が幼児の発達に重大な影響を及ぼすことを示すことができると考える。

3. 指導の内容

活動内容 : お気に入りの場所を写真に撮ることで、自分の遊びを友達や保育者に紹介し、遊びの楽しさを共有する



幼稚園の好きな場所を写真に撮る

活動の手続き:

1. 気の合う友達(2, 3人)とカメラを共有し、“森のお気に入りの場所”を撮影する
2. その後、子供の撮影した写真を保育者がパソコンの画面に映し出し、撮影理由や遊びについて、子供に聞き取りを行う
3. 「聞き取りシート」を職員間で共有し、子どもにどのような力が育っているのか見つけ出す



写真を撮った理由やどんな遊びをするのか聞き取りを行う



子供の話を集約し、どのような力が育っているのか共有する

4. 子どもの気づきと学び

ぼく・わたしの おきにいり (もりの すきな ばしょ)



しゃしんの ばしょ

まじよの ひろば

ここが すきな りゆう

ここで あそぶのが たのしい。この きに のほって
あそぶのが すき。ここで ごはん つくったり、ひみつきちも
つくったりした。でも、みんな いつも はいってる(ここにいる)
から、ひみつじゃ ないかも。

この写真は、子どもがカメラを持って撮影し、自分のお気に入りの場所を撮影しました。
自分のお気に入りの場所を撮影、もしくはお気に入りの場所にいる自分の姿を写真に撮影してもらいました。

保育者や
友だちと写
真を見なが
ら思い
出を語り
合うことで、
遊びの満
足感を再
確認したり、
次の遊び
の展開の
繋がりに
気づくこと
ができた。

ぼく・わたしの おきにいり (もりの すきな ばしょ)



しゃしんの ばしょ

まじよの ひろば

ここが すきな りゆう

そらぐみの なかで、この いっぱんばしを いちばん さいしょに
わたれるようになったから、ちいさいところも おおきいところ
も、たつて わたれるようになりたい。

しずかなときは、ここで ゆつたりと あそべる。

この写真は、子どもがカメラを持って撮影し、自分のお気に入りの場所を撮影しました。
自分のお気に入りの場所を撮影、もしくはお気に入りの場所にいる自分の姿を写真に撮影してもらいました。

5. 活動から得たもの

子どもたちの聞き取りを通して、子どもに適した森の環境を探る中で見えてきたことは…

○自分で作ったものがお気に入り！

自分で作った秘密基地、友だちや先生と作った森のブランコなど、“自分で作ったもの(場所)”は子どものお気に入りでした。

○「景色がいい」「森の匂いがする」など、感覚的なお気に入り！

“見晴らしのいい場所”や“静かで落ち着く木々の中”，“友達がいる場所”など、心地よさを感じる場所を挙げる子どもが多くいました。

○自分だけの特別だけど、誰かと共有したい場所がお気に入り！

聞き取りでは“秘密”と“友達”というワードが多くみられました。お気に入りには、自分(達)だけの秘密だけれど、友達や先生にも教えたい、そんな特別な場所のようです。

<結果から見えてきたもの>

子どもたちは、森の遊びだけでなく、自然そのものをお気に入りと感じていることがわかりました。子どもに適した森の環境とは、自然をそのまま残しつつ、子どもが手を加えられるよう適度に整えられた環境であると考えます。ありのままを大事にした、余地のある環境構成が望まれます。

6. 教員のふりかえり

子供が好きな自然環境は、作りこまれた人工的な自然ではなく手つかずの自然でもないということが理解された。保育においては、そのバランスを考えて環境を整えることで5つの力を身につけることができるという結論を得た。

7. 活動の広がり

この指導を通して、子供達の遊びのきっかけとして、「森の砦」が重要であることがわかった。保護者の協力を頂きながら、大人も一緒に子供達の遊びに思いを寄せ合い、保全活動することができた。

